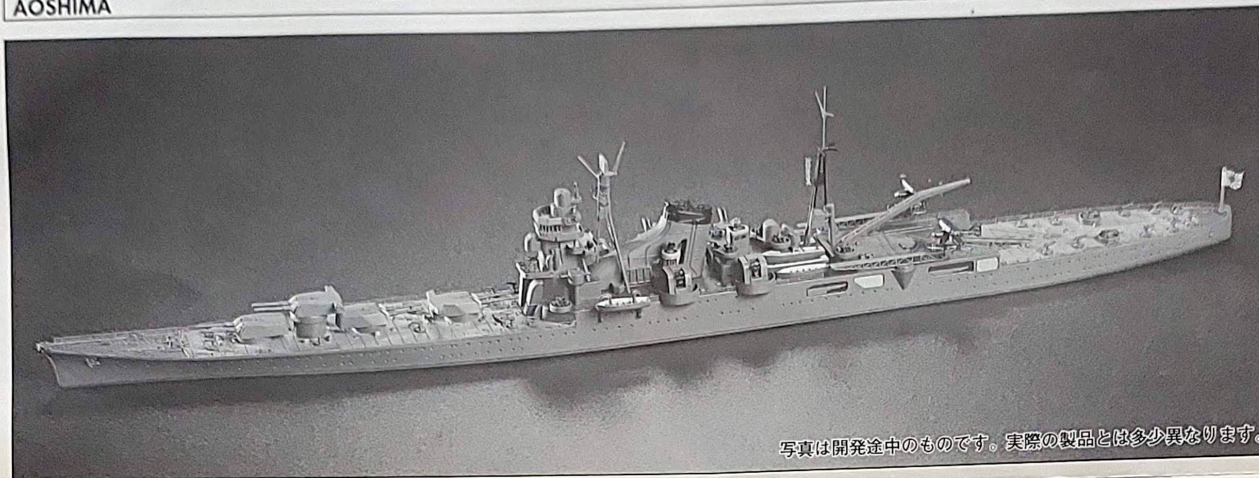




**SUPER
DETAIL TONE**

ウォーターラインシリーズ
日本重巡洋艦(とね)〈1944〉
JAPANESE HEAVY CRUISER
*MODELING SKILLS HELPFUL IF UNDER 10 YEARS OF AGE
(フォトエッチングパーツ付き)

WATER LINE SERIES
株式会社 青島文化教材社
〒420-0922 静岡県浜松市東区12番3号



写真は開発途中のものです。実際の製品とは多少異なる可能性があります。

重巡洋艦「利根」

重巡洋艦「利根」は、20cm砲搭載巡洋艦として最後に建造された艦型であり、前部に全主砲を集中装備し後部のスペースを偵察機の搭載用に当てることによって、強力な索敵能力を有することになった。この索敵能力を買われて、「利根」は「筑摩」とともに空母機動部隊の目となって開戦翌頭の真珠湾攻撃からミッドウェー開戦まで活躍した。南太平洋海戦に参加後、内地に帰還した「利根」は、電探・機銃の増備を実施した。レイテ湾海戦においては米軍護衛空母群に砲撃を加え、「ガンビア・ベイ」を戦艦「金剛」と共同して撃沈する戦果をあげた。内地に帰還した「利根」は、さらなる機銃の増備を実施したが燃料不足のため動けず、米軍艦載機の空襲によって大破着底し、終戦後解体された。

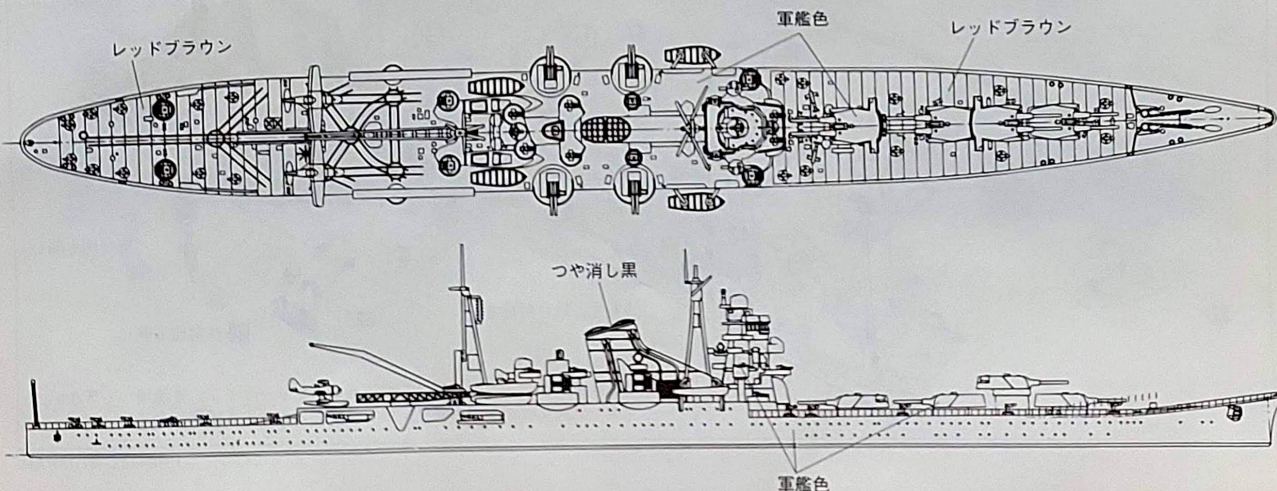
組み立てる前に必ずお読み下さい



1. 組み立てモデルですので、作る前に組み立て説明書をお読み下さい。
2. 部品を取り出した後のビニール袋は、小さな子供が頭から被ったりすると窒息する危険がありますので、破り捨てして下さい。
3. 部品はきれいに切り取り、切り取ったあとのクズは捨てして下さい。
4. 部品は、商品の都合上やむを得ない所がありますので危険です。使用目的以外には、絶対に遊ばないで下さい。特に小さなお子様のいる家庭では注意して下さい。
5. 部品の切り取りにはニッパーを使用し、バリ等の余分な部分はナイフ、ヤスリ等で仕上げます。また、ニッパー、ナイフ、ヤスリ等を不用意に取り扱うと、刃先等で手、指、足などを切る可能性があります。まずで10才以下の方は、保護者の方が行なって下さい。
6. 小さな部品がありますので、誤って飲み込まないように注意して下さい。窒息などの危険があります。誤飲の危険がありますので、対象年齢未満のお子様には絶対に与えないで下さい。
7. (接着剤、塗料を使用する場合は、下記に注意して下さい。)
 - ★接着剤、塗料は口の中に入れて下さい。中毒の危険があります。
 - ★接着剤、塗料が目に入った時は、すぐに大量の水で洗い流して、医師に相談して下さい。
 - ★締め切った室内では使用しないで下さい。中毒の危険があります。
 - ★近くでの火の使用も絶対に止めて下さい。引火する危険があります。
8. 直射日光の当たる場所や、高温・多湿になる場所には放置しないで下さい。

PAINTING

日本の軍艦の塗装は、艦体はいわゆる戦時塗色と言われる少し青みがかった濃い灰色を使っていました。これは1903年(明治36年)末、日露戦争をひかえてこの塗装が採用されて以来、大戦終結までそのままでした。現在の海上自衛艦の船体色とはほぼ同じです。ただ大戦後期になって航空母艦に限って薄緑色を使用しました。時には迷彩塗装も使われましたが、これはねずみ色の濃淡のめり分けでした。吃水線以下の艦底の色は、マルーンと呼ばれる暗い赤色です。甲板は駆逐艦、軽巡が鉄板張りで艦体と同色、重巡は艦によって鉄板張り、リノリウム張り、板張り種類が違いますが、リノリウムと板張りは塗装されず、そのままでした。戦艦の甲板、ほとんどの空母の飛行甲板は板張りです。細部では煙突の頂部は黒、後部マストは、上方へ煙突の頂部と同じ高さから9m、下方へは煙突の黒色部分の下端までと同じ幅で黒く塗装していました。菊の御紋章は金色、砲身基部やカッターなどのキャンパスのカバーは白がよいでしょう。艦尾にひらがなの艦名が真鍮板で付いていましたが、戦時には艦体と同色に塗りつぶされました。書き出しは右からですので注意して下さい。開戦からしばらくの間、連合艦隊所属艦は識別のために前マスト、檣楼のトップは白でした。



※エッチングパーツの接着は瞬間接着剤（ゼリータイプ）を使用して下さい。
※エッチングパーツの折曲げには定規やピンセットを使用します。